

使命」は魂を

成長させる事口(2)

皆様、先月の1ヶ月間は、言葉は悪いですが、「少し損をして生きてみる事」を目標に掲げ、実際に試してみられましたか？自分の使命に気づける荒両方かも知れませんが、心根を強くする為には、ぜひお勧め致します。まあ確かに、すぐに結果は出ないですが、結果を急ぐようになった自分を顧みる練習も含まれていると寛大に捉える事も、大切な訓練であるとと思います。この様な積み重ねが、いずれ必ず結果として現れてくる事だけは、お約束させて頂きます。

畑に例えれば、美味しい果物や野菜の実を収穫するためには必ず、種蒔きをしなければいけません。そしてただ種を蒔けば実がなるのではなく、お水を差し、雑草を刈り、毎日の愛情があつてはじめて美味しい実がなるのです。自らの心の美味しい実を収穫するために、前述の心がけは、「心の眼が咲く種蒔きをしたのだ」と、考えてくだされば幸いです。

さて今月号では「使命は魂を成長させる事(パート2)」に入っていきたいと思います。

「俺が俺が」・「私が私が」と自己の繁栄だけを望んで何かをやつたと

いかな自滅への道に繋がってしまっています。その事実を、これまでの歴史が証明してくれています。過去の歴史を振り返つてみても、自己繁栄を夢見た国家、民族、個人でも繁栄を遂げ続けた例は一つもありません。ローマ帝国にゲルマン帝国など、大国を築き上げた民族は、今では跡形も無くなつてしまいました。原因は何だったのでしようか？それはまさに、「自己のみの繁栄に固執した結果」と言えるのではないのでしょうか？

先日ある年輩の女性がお寺に來られて、次のような話をしていました。

「私は家も建てたし、孫にも恵まれた。それでいつもお寺や神社に参拝して、ありがとうございます、私は幸せですと言いつつ続けているが、不安がなくなることがない。あれだけ神仏に祈り、感謝して、なぜ不安が消えないのか分からない」と。

しかし私には彼女が不安にさいなまれている理由が分かります。1つは「何事も無い人生を望んでいること」つまり「恙無い人生を祈っている」からなのです。しかし私達は恙無い人生を望んでしまいます。彼女が感謝する内容を知られば、恙無い人生とはどういうものなのか、お分かり頂けると思っています。

彼女の感謝は自分の健康、家族の健

康、家内安全というものです。人情としては誰しもが納得するし、おそらく同じ様に祈っているのではないのでしょうか？けれど、この世の中は諸行無常です。変わらないものなんて何1つありません。つまり、年も取るし、病気にもなる。そしていずれは死を迎えます。全ては移りゆく人生なのです。健康を祈っていて、もし病気にでもなれば、その人の祈りは叶わなかったことになるのでしょうか？そうではありませぬよね？たとえ健康を崩そうが、家庭不和な状態が起きてしまつても、そこから何かを学び、立ち上がる努力をする事の方が、恙無い人生を望むよりも、よほど大切に肝心なことなのではないでしょうか？

もし皆さんが感謝の気持ちを抱くならば、今ある人生に対して、状況に対して、感謝する気持ちを仏様に、ご先祖様に報告する事こそが、何より素晴らしい祈りになるものと思います。その祈りの中に、現状打破するヒントを閃かせていただけるものと思います。絶体絶命の状況の中から、一筋の光明が差ししてくることだろうと思えます。過去と現在、現在と未来、人と自分など、何においても比べてはいけません。悲観的になるだけです。どうか、自分の心に問いかけ直してみてください。すると自分の本質が、見えてくるかも知れません。

その祈りが、他人の喜びに役立てないというは、いくら感謝をしていても「いつか不幸がくるのではないか」という気持ちが起こってくるものなのです。

感謝にも色々ありますが、「感謝する」とは、ありがたいと思うだけでは不十分です。

ありがたいという気持ちで人に喜びを与える事が出来た時に、初めて深い「感謝」の念が完成するのではないかと思います。優しさや知恵や助けを頂いたら必ずお返しすることが大切です。

どなたの言葉か知りませんが、「返謝で感謝が完成する」。

まさに的を射った言葉です。勿論、感謝を返すといつても、それに見合うだけの物やお金を渡せと言うのではなく、大切なのは、多くの人のために自分の人生を人に費やす事、つまり、相手の為のみに心を砕いた時間を過ごしたか？どれだけ「心を込めたか？」なのです。

人を手助けすることもそうです。笑顔と優しい言葉で感謝の思いを伝えるだけでも良いのです。その人に出来る範囲の事を善意を持って精一杯行えばよいのです。私が折に触れて思うのは、一生の間にどれだけ多くの人達から「ありがとう」と言われ、

どれくらい人に「ありがとう」を言ったかが、いかに人生で大切かという事です。もつと言え、いつか自分は「ありがとう」と言われる側に立ち続けることです。

人生を人の繋がりで生きていく決心をするのです。その時「信」が一番大切な宝物であることに気がつくはず。

人生の目的の1つは、自分の悪癖を乗り越えながら、様々な体験を通して魂を成長させることです。

今生（今の自分の一生）で私達が生きたことは、全部その因縁によって次の世界に生かされていきます。

私達は生きていると様々なトラブルに遭遇します。これは世の中が悪いのでも運が悪いのでもなく、人間の生まれ変わりの中で、全て過去に自分が投げたものが自分に返ってきている姿に他なりません。自分が置かれた様々な環境は自ら呼び寄せたものが多いのです。ですから遭遇する出来事を全て、自己の成長のためと肯定的に感謝して、人の繋がりで、人の輪の中で生きてることなのです。信仰心は「怒り」よりも「生きるエネルギー」を生み出します。「怒り」のエネルギーに生きるより、「尊敬」と「信」のエネルギーで生きていかれますように願っています。

少し貧である生き方は自由自在の心境に皆様を導いてくれます。何も恐れず、何もおべつかを使わず、何もへつらわず、少しも威張らない。これから私自身も、そうありたいと願っています。

「自行化他に本当の幸せがある」と思っています。

私達それぞれの使命とは、自分のみではなく、人の為にどれくらい尽くすことが出来るか？

そして引いては、その尽くしたものが自分に必ず返ってきます。

それこそが本当の幸せであり、自らの魂を磨くことになるのです。今後益々、「心の大きな眼を咲かせるため」に、人生の修行を怠らないことを誓い筆を置きます。

合掌

副住職 谷川 寛敬